

□議員名：岡山明

1 学校給食におけるアレルギー対応について

論点	学校給食におけるアレルギー食対応の児童生徒は何人いるか。
回答	市内の小中学校において、アレルギー対応の給食を提供している児童生徒の人数は、令和5年6月1日現在で、小学校44人、中学校24人の計68人となっている。

論点	学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）に基づく取組、活用状況はどうか。
回答	在学中の児童生徒については、家庭での食事や給食での喫食状況から、食物アレルギーの疑いがあると、保護者から申し出があった場合は、生活管理指導表の提出をお願いしている。転校生の場合も、アレルギー調査票等で保護者に食物アレルギーの有無や給食対応が必要か確認している。

論点	アレルギー症状の発症時など緊急時対応の流れはどのようになっているか。
回答	令和5年でアドレナリン自己注射薬、エピペンを処方されている児童生徒は13名である。この自己注射の使用については、研修（模擬で打てる機器がある）で実際に行っている。エピペン等については、ためらうことなく症状が出たら打ちなさいという指導になっている。

論点	実践的な対応のためには、訓練が必要不可欠と思われるが、研修会等への参加はどうか。
回答	各学校では、アレルギーのある個々の児童生徒について情報共有を図るとともに、緊急時の連絡体制を確認しています。アドレナリン自己注射の使用についてのワークショップ又は動画の視聴、全ての教職員が参加する研修も行っている。また、心肺蘇生やAEDについては、水泳の授業等もあるので、教職員も研修を行っている。

2 読書活動の推進状況について

論点	子供たちに対してどのように読書活動を勧めているか。
回答	本市では、平成18年9月に山陽小野田市子ども読書活動推進計画第1次計画、令和5年3月には第4次計画を策定し、子供の読書活動の推進に努めている。4次計画では、七つの柱を設けている。その一つとして、平成15年度から全国に先駆けて実施しているマタニティ・ブックスタート事業を起点とする、切れ目のない子供読書活動の推進を行っている。

論点	母子手帳受け取りの際に、ブックスタートセットを渡す取組が整っており、このブックセットの配布率はほぼ100%である。乳幼児が絵本と出会うためには、やはり保護者の理解が必要不可欠である。母親と子供に対して、取組をどう進めているか。
回答	本市が全国に先駆けて実施した、マタニティ・ブックスタート事業は、赤ちゃんとお母さん、お父さんが肌のぬくもりを感じながら、絵本を介して言葉と心を通わすひとときを応援する運動である。乳幼児にお勧めの絵本のブックリスト、絵本だ〜いすき！ブックリスト〜0・1・2歳児向け、3・4・5歳児向けも発行しており、様々な場面で配布し、利用促進と理解の普及に努めていく。

論点	全国学校図書館協議会での学校読書調査の結果で、1か月に読んだ本がゼロ冊である不読者数の割合が、小学生は6.4%、前回比で0.9%プラスである。中学生は18.6%、前回より8.5%プラスである。この不読率をどう思われるか。
回答	全国学校図書館協議会の分析では、朝の読書の時間がなくなっているのではないかとのことである。原因は、子供を取り巻く読書環境の変化をはじめ、生活様式の多様化など、様々な要素が絡み合っていることから、現時点ではその要因については特定することは難しいと考えられる。今後、子ども読書推進計画を着実に推進していく中で、改善につなげていきたいと考えている。

論点	令和3年10月に電子図書システムが稼働している。令和4年3月
----	--------------------------------

	にはシステムの更新が図れたようだが、運用状況はどうか。
回答	電子図書館の利用については、2次元バーコードを館内に表示するなど、様々な手法でPRを実施し、利用者の拡大を努めている。さらに、今年3月に市内の全ての小学生と中学生に利用者カードと電子図書館のIDとパスワードを配布し、市内の小学生と中学生の電子図書館システムの利用が可能となっている。5月末現在、電子図書館システムの登録者は小中学生を含めて5,200人となっており、今後とも利用の促進に努めていきたい。

3 市内の浴場について

論点	公共・公衆浴場、利用状況はどうか。
回答	公共浴場はきらら交流館があるが、施設のリニューアルのため、令和9年1月まで約3年半休館という状況になっている。公衆浴場として本市に届出がある施設は、令和5年6月1日現在で14施設あるが、ホテルやゴルフ場等にある入浴施設を含めた数である。いわゆる銭湯と呼ばれる一般公衆浴場については、現在、本市には1軒もない状況である。

論点	現在、稼働している中央福祉センター、浴室の今後の見通しはどうか。
回答	中央福祉センターについては、老朽化が進み、設備の維持も遠からず困難になることから、現在の形での運用は今年度で終了し、LABVプロジェクトの新施設に福祉センターを移す予定としている。現在の中央福祉センターでの浴室及び貸館については今年度で終了する予定である。